

2021年度 学校自己評価・関係者評価

学校番号72 長野県木曾青峰高等学校 全日制

| 学校教育目標 | 重点目標 |
|---|---|
| <p>広い視野とやさしく豊かな心を持ち、真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人間を育成する。</p> <p>(教育方針)</p> <p>①自他の敬愛と協力を重んじ、民主的な社会の形成者たるにふさわしい豊かな人間性を養う。</p> <p>②自主・自立の精神を養い、主体的にして責任ある行動のとれる人間を育てる。</p> <p>③学習及び諸活動における真摯・勤勉の気風と切磋琢磨の精神を重んじ、個々の能力の伸長を図る。</p> <p>④多様な学習によって、自らの未来を切り拓く力と創造性豊かな個性をはぐくむ。</p> <p>⑤故郷の社会・文化を大切にする心を培い、地域社会の発展に寄与する人間を育てる。</p> <p>⑥木曾の豊かな自然を愛し、地球環境の未来を考える視野を養う。</p> | <p>①いじめ・体罰などのない安心かつ安全な学校づくりを進める。</p> <p>②あらゆる分野で生徒一人ひとりを大切に教育活動を推進し、生徒の能力や個性を伸ばすことで、進路希望の実現を図る。</p> <p>③生徒会・部活動などの諸活動を積極的に支援し、地域社会に貢献できる生徒を育てる。</p> <p>④地域社会との連携と開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>⑤「夢に挑戦する学び」、「高大接続改革」、「未来の学校」への対応を進める。</p> |

評価 A…よい B…おおむねよい C…不十分

| 自己評価 | | 学校評議員評価 | |
|--|----|---------|--|
| 学習指導 | 評価 | 評価 | コメント |
| <p>授業内容の充実</p> <p>【成果と課題】 授業アンケートの結果を見ても昨年度と比べると授業内容が充実している。生徒も授業に対して積極的に取り組んでいると言える。ICT機器を導入し、各教科の特性を活かした授業が展開されている。今後は、タブレットの導入により新たなスタイルの授業展開が必要とされる。</p> <p>【改善策・向上策】 タブレット導入の授業については、教員間での積極的な意見交換や公開授業を積極的に実施することが望ましいと考える。</p> | A | A | <p>○タブレット導入の授業については、学校間の格差も生じつつあるため、教員間の話し合いを多くして、授業の質を上げていってください。</p> <p>○ICT活用については、特定の教師の負担が増える旨聞いております。工夫をしながら活用を願っています。</p> |
| <p>家庭学習の習慣</p> <p>【成果と課題】 学校から出された課題はほとんどの生徒は行っている。しかしながら受動的な姿勢が多く見られ、自ら考えて学習方法を身につけていくことが必要とされる。</p> <p>【改善策・向上策】 各教科において、学習方法のベースをしっかりと説明して実践できるような働きかけがさらに必要となる。自ら課題を見つけ解決していく力を、生徒が身につけるような学習指導を行わなければならない。</p> | B | B | <p>○積極性は大変重要ですので、是非勧めしてほしい。</p> |
| <p>授業・補習内容の充実</p> <p>【成果と課題】 各学科で実施している補習にはほぼ全員の生徒が参加している。各学科に特化した補習が実施されている。3年生については放課後や土曜を利用した補習を実施することで学力の向上に努めている。理数科については土曜授業の影響もあり、放課後補習に重点を置かなければならないのが現状である。日課表や教育課程の見直しが必要となる。</p> <p>【改善策・向上策】 休業中や土曜日の補習については、各教科の特性を活かした内容を十分に検討し実施する必要がある。理数科に関しては土曜授業の削減を視野にいれる必要がある。</p> | B | B | <p>○補習に関しましては、「働き方改革」に鑑み、教師の負担増にならない様にして頂きたいと思います。</p> |
| <p>各種資格検定への取り組み</p> <p>【成果と課題】 目標を持ち積極的に資格取得に挑戦する生徒が多く、熱心に学習する姿が見受けられた。資格取得や検定試験に合格することで次の目標に向かう意欲が持っている。</p> <p>【改善策・向上策】 資格取得学習の充実と改善を図っていきたい。目標を高く持ち毎日の学習が充実したものになるようにしたい。合格したことから自信を持たせ、次の目標に向かわせたい。</p> | A | A | <p>○評価の観点にはないので参考で良いですが、資格取得と就職との関連を知りたいと思いました。</p> |

| 進路指導 | 評価 | 評価 | コメント |
|--|----|----|--|
| 進路目標の明確化 【成果と課題】 新型コロナウイルス感染拡大の中、企業説明会やオンライン進学相談会、県内実施の進学相談会等により自らの人生について考え、進学先、就職先を考えることができています。 学科によって進路は様々であることから、個々に必要な情報を提供することが重要である。 | A | A | |
| 【改善策・向上策】 学習係等とも連携をしながら総合的な探究の時間等も活用し、生徒が自らの目標実現に向けて学校生活を送れるよう、指導を行っていきたい。 | | | |
| 具体的な進路指導 【成果と課題】 各種進路行事に関しては各学年や学科の工夫もあり、成果をあげている。進学・就職に関する様々な情報を学校・分野別に整理しており、資料室等に来る生徒が多い。 2回目となる大学入学共通テストについては昨年の反省や2回目の難化予想等を踏まえ、各教科を中心に対処をしていった。 | A | A | ○障がい特性のある生徒については、本人が具体的なイメージが持てるよう、より丁寧なサポートが必要となりますが、親への理解も含め、早くから取り組んでいただき、ありがたいです。今後も、障がい特性のある生徒へのサポートを支援センターともにとり、一緒に携わらせていただきたいと思います。 |
| 【改善策・向上策】 今後も進路指導係が主体となり、自立した進路選択と進路実現に向けて、3年生はもちろん、1、2年次から進路指導を充実させていきたい。 来年度より新課程となり、3年後には新課程の入試も控えていることから、その対応について進めていく必要がある。 | | | |
| 進路の実現 【成果と課題】 近年の取組である、3年生の大学進学希望者への幅をもたせた志望校の検討を継続し、個々の志望校の候補を広げることができた。 近年、増加傾向である学校推薦型選抜、総合型選抜についても出願生徒の検討、書類作成の指導、面接小論文の指導等を行い、十分な指導ができた。 | A | A | |
| 【改善策・向上策】 今後も一般入試にこだわらず、幅広い入試形態にチャレンジをさせることが必要である。出願書類の作成や、面接等に向けて、1、2年次からの大学調査や自己理解についてさらに深めておく必要がある。 | | | |

| 生徒支援 | 評価 | 評価 | コメント |
|---|----|----|---|
| 生徒の人権意識・自己指導力の育成 【成果と課題】 S S Tを取り組むことで、少しずつではあるが、対人関係のスキルを身に付け、人間関係の構築が図れるようになった。また、授業や部活動、生徒会活動やH Rでの主体的に取り組みが多くみられ、生徒自身が律する力が高まった。 | B | B | |
| 【改善策・向上策】 S S Tやゲートキーパー講座で学んだことを、さらに日常生活に生かせるよう、働きかけをしていきたい。 生徒に考えさせ自ら行動に移せるような場面を、より多く設定していきたい。 | | | |
| 社会性の涵養 【成果と課題】 コロナ禍において地域との関わりが減少し、学校内外の培われてきたものを一から構築しなければならなくなってきたため、次年度以降も、主体的に社会と関わりを持つ生徒、社会の一員であるという自覚が持てる生徒を育成していく。 | B | B | ○今後もコロナ禍は続くと思われます。活動の制限の中、社会性の涵養は難しいと考えます。改善策をより具体化していく必要がある様に思います。 |
| 【改善策・向上策】 コロナ禍において地域との関わりが減少し、学校内外の培われてきたものを一から構築しなければならなくなってきたため、次年度以降も、主体的に社会と関わりを持つ生徒、社会の一員であるという自覚が持てる生徒を育成していく。 | | | |
| カウンセリングの充実 【成果と課題】 カウンセリングを通して、生じている問題やその背景・要因をつかみ、具体的な支援へとつなげることができた。また、S S Wなどの外部機関と連携し、校内では解決が進まない問題にも対応することができた。 スクールカウンセリングについて生徒、保護者により理解していただき、構えることなく、相談したい時に相談できる環境を作る必要がる。 | A | A | |
| 【改善策・向上策】 相談窓口の周知を工夫したい。講演などでカウンセラーと生徒が触れる機会などが作れるとよい。また、学校生活適応感に関するアンケート（アセス）の結果を活かす方法について探っていきたい。 | | | |

| 特別活動 | 評価 | 評価 | コメント |
|---|----|----|--|
| 自主活動の充実と生徒の自立 【成果と課題】 感染症対策で、リモート等を活用し、試行錯誤しながら学校行事の運営が行われた。初めての試みで改善が必要な点も反省に示されながら、より良い学校活動にしようという機運がうまれた。総務会が中心となる環境活動が企画されるなど、学校行事以外の自主活動も見られた。 | A | A | |
| 【改善策・向上策】 各委員会活動が、委員長中心に少人数で行われ、総務会や委員会等、さらに委員同士の連携が足りないと生徒からの反省が聞かれた。今後は、生徒会総務会と各委員長が連絡会を開き、生徒や委員会相互の連携を図っていきたいと計画が進んでいる。 | | | |
| 地域を視野に入れた活動 【成果と課題】 生徒会とPTAの懇談会が開かれ、生徒アンケートをもとに学校の環境整備活動が実施された。コロナ禍ではあったが、工夫しながら木曾養護学校との交流も以前と同様に実施され、地域との連携が深まった。感染症対策で地域住民や外部組織との連携の機会が減少しており、今後の課題となる。 | B | B | ○体験実習でお世話になった企業から、これまでの青峰高校との関りや青峰高校への思いを聞く機会があり、地域の中で大切に育まれてきた学校なんだと思いました。コロナ禍であり、難しいとは思いますが、地域との繋がりは、これからも大切にさせていただけたらと思います。 |
| 【改善策・向上策】 コロナ禍においては、ONLINEやSNS、メディアを活用した、地域への情報発信が可能であると考え。これまで行われていた地域交流以外にも、生徒が主体的に地域に出かけて学び交流する機会が創出できるよう、活発な情報収集や情報発信などの工夫を検討する。 | | | |

| 全般 | 評価 | 評価 | コメント |
|--|----|----|------|
| PTA活動の充実・家庭との連携 【成果と課題】 コロナの中、PTA総会および地区PTA懇談会をなんとか開催することができた。 学校環境委員会、学校行事委員会、文化委員会の活動を変更もあったが実施できた。 生徒会活動の一環としてPTA予算から不要物の廃棄費用を出していただき、廃棄処理を行うことができた。 本会役員のローテーション見直しに着手し始めた。 | B | B | |
| 【改善策・向上策】 次年度は更にPTA活動を通して学校・家庭・地域が連携し、生徒の成長につながる事業が再開できることを希望している。本会役員のローテーションについては理事会で検討中であり、現行3ブロックを改編していく見通しである。 | | | |
| 情報発信 【成果と課題】 既存のページ更新については随時実施した。青峰Nowは12月時点で、昨年度の掲載数を3件上回った。 スクールマガジンは、今年度第5号まで発行予定である。また、今年度から郡内中学校の全生徒に配布を行った。 | B | B | |
| 【改善策・向上策】 ホームページの更新はHTMLの知識、技術を要する。特定の担当者に偏らず更新作業ができるよう、担当者の養成が望まれる。 スクールマガジンは次年度も郡内中学校の全生徒に配布していきたい。また、発行回数も予算面の課題はあるが、できるだけ数多く発行し、学校および生徒の活動状況を地域の皆様に発信していきたい。 | | | |
| 地域との連携・開かれた学校づくり 【成果と課題】 コロナの関係でオンライン授業を行った時期もあったが、予定した行事は、ほぼ実施することができた。ただ、地域の皆様との連携や行事の公開（蒼陵祭等）については、十分に行うことができなかった。 体験入学は、例年通りの日程・内容で実施した。参加者数は、昨年度とほぼ同数であった。全体会、全学科の説明・授業体験およびクラブ見学等、多くの中学生に本校の様子を十分に伝えることができた。 本年度、年間通しての授業公開を行ったが参観者数は少なく、情報発信の方法を検討する必要がある。 課題研究発表会およびインテリア科作品展示会は、生徒の学習内容及び成果を保護者の方々に公開することができた。 | B | B | |
| 【改善策・向上策】 ホームページ等を通して、さらなる広報活動の充実に努めたい。 公開授業については、実施方法を検討し、発信方法についても工夫していきたい。 | | | |
| 生徒・職員の健康管理 【成果と課題】 新型コロナウイルス感染症予防のため、生徒・保護者向けの通知を出し、職員にも情報共有を行った。 グーグルフォームを活用し、毎朝の健康チェックを生徒に記録させるようにした。 また、生徒保健委員会の活動として呼びかけや掲示などを通し、健康管理を行った。 手洗いの徹底、清掃時の消毒活動、毎朝の検温が十分でないことが課題である。 | B | B | |
| 【改善策・向上策】 生徒が自分事として捉えられるよう、保健委員会だけでなく色々な委員会と協力して、手洗い、検温、消毒等の感染症対策を促していきたい。 ICTを活用して、保健だよりや健康に関する情報をより届けられるようにしたい。 | | | |
| 連絡体制の完備 【成果と課題】 一斉メールにより情報を各家庭に伝える事ができた。 安否確認が必要な場面が発生したが、グーグルフォームを活用し迅速に集計を行うことができた。 | A | A | |
| 【改善策・向上策】 一斉メールは登録率100%に向け、継続して登録の呼びかけを行なう。 生徒登録と保護者登録の情報の混在が見られるので、登録方法の案内を工夫する必要がある。 | | | |